

ちょっと意外な

# 怖い本

カウンターにいてよく聞かれるのが「怖い本ってどれ？」  
スリル大好きな皆さんに怖い本を紹介します。ちょっと変化球を  
かけて(?)お届けします。

## ポッコちゃん/星新一著

ショートショート of 金字塔。どれも  
すぐ読み終わる短編ですが、読後はか  
なりあとを引くものばかり。ザワザワ  
します。

## おいしいのぼうけん/古田足日、田畑精一作

保育園のお昼寝の時間にさわいだあきらとさとしは、  
暗くてこわい押し入れに入られます。  
幼いころ特別な場所だった暗闇のこわさと神秘性を  
思い出しながらかいてください。

## 幸福な生活/百田直樹著

平凡な日常にひそむ人間の怖さを感じ  
る短編集。ラスト1行で世界がガラッ  
と変わる。

## ようこそ、我が家へ/池井戸潤著

駅のホームでの割り込みを注意した会社  
員・倉田。その日から家庭では嫌がらせの連  
発、会社では窮地に追い込まれる。  
もしあなたが倉田だったら…。現実に起こ  
りうる出来事に、恐怖を感じ、現代社会の問題  
をも考えさせられる作品。

## 怖い絵/中野京子著

たとえばドガの人気作「エトワール、ま  
たは舞台の踊り子」。舞台上踊るバレリー  
ナの構図に斬新さを感じるが、当時の時代  
背景を知ることで絵の持つ恐ろしさが湧き  
上がってくる。絵画鑑賞法を案内するヒッ  
ト作。

## おぞましい二人/エドワード・ゴリー著、柴田元幸訳

子どもを誘拐しては殺してしまう忌まわしいカップル  
の話。ゴリーが「どうしても描かすにはいられなかった」  
という、実際起こった事件を描いた絵本。この二人を「お  
ぞましい」と切り捨てることのできない後味の悪さが、心  
の中に残ります。

## エンジェルフライト/佐々淳子著

海を越えてご遺体を遺族のもとへ送り届けるの  
が国際霊柩送還士の仕事。彼らの職務と日々の思  
いを綴った作品。  
遺体と向き合う中で、決して穏やかな状況では  
ない彼らの胸の内を知った時、直視できないよう  
な描写の向こうに尊敬に値する神々しさすら感じ  
る。

## 生命と食/福岡伸一著

食の安全、生命維持に不可欠な「食べる」という行為を  
生物学的な視点から述べています。食に対する危険をいた  
ずらに煽るのではなく、人間が生物であり、地球の一部で  
あることを受け入れる姿勢が大切なようです。  
安い食べ物ばかりを買うことが怖くなり、そんな行動を  
見直すきっかけになるかもしれません。

## 注文の多い料理店/宮沢賢治著

多くの人がかいたことある宮沢賢治の作  
品。ひたひたとしのびよる恐怖は、あらず  
じを知っていても怖いと思いませんか？

## Nのために/湊かなえ著

ドラマの原作本です。ミステリー  
ですが、登場人物それぞれのエビ  
ソードもとても良いです。ドラマを  
見た人もぜひ読んでみてください。  
(2年 女子)

## 人間椅子/江戸川乱歩著

私の好きな作家のホラーです。文豪と  
聞くと、難しい言葉を使っていて、読み  
づらい作品を書いているというイメージ  
を持っていました。でも、読んでみると  
ストーリーにどんどん引き込まれました。  
(2年 女子)

図書委員と常連さん  
のおすすめ本Vol.4  
怖い本編